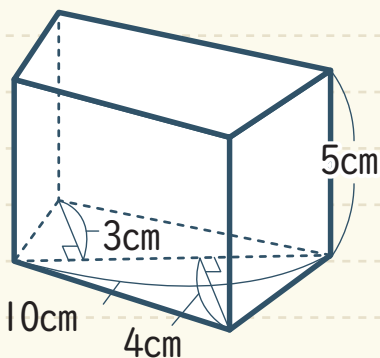


6年生の算数の授業



初めに、全員で授業の「めあて」を確認したよ。
今回のめあては、「四角柱の体積を求める」だよ。

めあて
四角柱の体積を
求めることが
できる



みんなもチャレンジ
してみてね



ヒント

底面積×高さ (答えは次ページ)

STEP

1

伸びやかな発想力で考える



何度も線を描いたり消したりできるから、いろいろな考え方を試すことができるんだ。みんな真剣にタブレットPCを使って考えていたよ！



児童全員のタブレット
画面が表示されている



先生はクラス全員のタブレットPCの内容が見られるから、誰がどこまで理解しているか、どんなところでつまづいているかがよく分かります。

POINT!

一斉学習

全体への指導に
おいても一人ひとりの
反応を確認できる

特集

小・中学校で進む

1人1台タブレットPC

ICT教育

どんな授業かのぞいてみよう



GIGAスクール
モデル校
氷野小学校を
ダイトンが
取材しました！

市内の公立小・中学校で、文部科学省が掲げるGIGAスクール構想※に基づいた、ICT教育※が進められています。今回は「1人1台タブレットPC」の良さを最大限に生かし、一人ひとりの学びを大切に、より質の高い授業づくりを紹介します。

GIGA
スクール構想

これからの情報社会に求められる能力の育成のため、子ども一人ひとりがインターネットにつながったパソコンを活用し学習を進められるように、教育ICT環境を整備するための計画。

※GIGA…Global and Innovation Gateway for Allの略

ICT教育

パソコンや電子黒板、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育。

※ICT…Information and Communication Technologyの略



STEP 4 先生が見童を確実に把握する



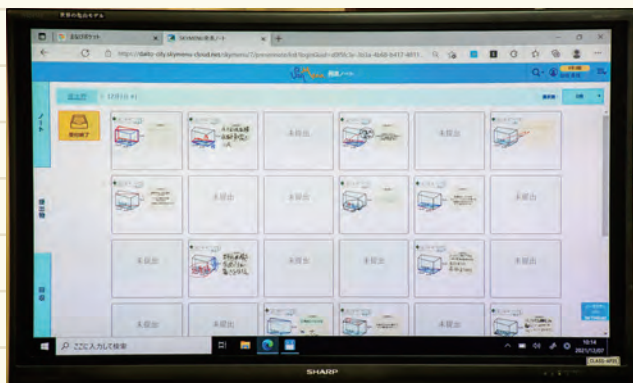
「計算できそうだと思う人は？」と先生が聞くと、全員の手が挙がったよ！



答え 175 cm^3 !



「発表ノート」が完成した児童から、タブレット上の「提出箱」の中に送信するんだ。先生は、最後まで児童の様子を確認できるんだね！



教室の中では、仲間同士で学びあう姿がたくさん見られたよ。タブレットPCを使った授業は、みんな楽しそうだったな。



POINT!

学習確認

先生は一人ひとりの理解力や状況が分かる

STEP 2 協力して取り組む



次は、隣の席の児童とペアで考えはじめたよ。「そんな考え方もあるんや〜」という新たな発見もありそうだね！



POINT!

協同学習

各自の考えを効果的に共有できる

STEP 3 モニターを使って考え方を発表ともに伝え合い学び合う



自分のタブレットPC画面が映ったモニターを使って説明していたよ。みんな堂々と発表していてすごいなあと思ったよ！

僕は先に底面の2つの三角形の面積を合わせてから高さをかけました



私は2つの三角柱の体積を計算してから、その2つを合わせました



映像など視覚的な表現により、大幅に理解度がアップします。

POINT!

理解促進

視覚的に情報を確認

氷野小学校の先生にインタビューしました!!



加地 勇哉 先生

だいとう教育ビジョン2019でも掲げられている「学び合う」授業を基に授業づくりに取り組んでいます。この「学び合う」授業が子どもたちに根付いているおかげでタブ

レットPCを活用した協同学習が生きています。タブレットPCを使うこと自体が目的ではなく、それぞれの授業の目的を忘れずに、従来の授業のどの過程でタブレットPCを取り入れれば、効果的に深い学びにつながるかを日々考えています。



丸山 真矢 先生

ICTをいつ・どのようなことに、どれくらい使うのかを、子どもたち自身が判断し、必要に応じて活用できるようになることが大切です。そのためには、タブレットPCの「メリット・デメリット」を子どもたち自身が理解しなければなりません。

子どもたちがタブレットPCに触れる機会を増やすとともに、情報モラル教育を進めることで、子どもたちが自らルールやマナーを守ってタブレットPCを使用することができます。最初から、「あれはダメ」「これもダメ」と否定するのではなく、子どもの主体的な学びのために、失敗も含めて、見守ることを意識しています。



教育現場でICTを取り入れて“良かったこと”

- ◆ プリント類が必要最低限になった
- ◆ インターネットでの検索が身近になったことで、児童がより積極的に調べ学習を行うようになった
- ◆ 板書が減り、授業の中で「考える」ことや「話し合う」時間が増え、学習理解につながった
- ◆ 教員間の情報共有がスムーズになり、他クラスの児童の様子を知る機会が増えた
- ◆ 教員の業務負担が減ったことで、個々の児童に向き合う時間が増えた
- ◆ 児童がどこでつまづいているのか、即時に対応できるようになった



氷野小学校の特色 「50のスキル」

50のスキル(抜粋)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	カメラからQRコードで記されたWebを読み込み、アクセスできる												
2年生													
3年生	自分の名前をローマ字入力できる												
4年生													
5年生	Power Pointで写真などを貼り付け簡単なプレゼンテーション資料を作成できる												
6年生	400字程度の比較的に長い文章を入力することができる												

パソコン操作やインターネット活用など50項目の技術を卒業までに習得できるようカリキュラム化しています。先生は計画的に確実に、それぞれの技術を身につけさせることを意識して授業づくりを行います(左記の表は一部を拡大したイメージ図)。

家庭学習

タブレットPCを使った宿題も出されます。答え合わせの機能が付いているので、個人のペースに合わせて進むことができます。

このように子どもたちにとってタブレットPCは、文房具や教科書と同じように身近な存在になってきました。



中学校の授業もICT教育が進んでいます

北条中学校 オンライン交流

Zoomを使用したオンラインでの生徒会交流会です。他校からの活動報告や相談事、タブレットPCの活用方法などを共有し、交流しています。府内のモデルとなる授業づくりを進めています。



Zoomとは テレビ会議を行うことができるコミュニケーションツールです。

南郷中学校 なんちゅう映え

Teamsを活用してInstagramのように、教員が授業の様子や教員間で共有したい生徒の様子などを写真とコメントを付けて共有しています。他学年の授業や生徒の様子を知ること、新たな発見やその姿を通じて授業づくりに役立っています。また、クラス外での生徒の様子を共有することにより、教員同士のコミュニケーションも深まっています。昨年夏に開催された西日本最大級のICTイベント、

「第6回 関西教育ICT展」に、教育委員会の森田幸夫指導主事が特別講演のパネリストとして参加し、「なんちゅう映え」を始め、本市の取り組みを発表しました。

Teamsとは コミュニケーションツールの1つで、登録されているメンバー同士でチャットやテレビ会議、共同作業を行え、授業でも活用しています。専用のクラウドを使用し、セキュリティが確保されています。

犯罪の**被害者**や**加害者**にならないために

情報モラル教育を実施



スマートフォンやパソコンの普及により、子どもたちがインターネットを利用する機会は年々増加し、市の調査で、自由に使えるスマートフォンなどを持っている人回答した人は3年生以上の小学生で44.8%、中学生では87.2%となっています。

インターネットは正しく使えば便利な道具ですが、使い方によって犯罪被害に巻き込まれる可能性もあります。犯罪の被害者や加害者にならないために、児童生徒に「情報モラル」を身に付けることが重要であることから、情報モラル学習教室を実施しています。自他の人権を尊重し、自分で考え、正しく安全なインターネットの利用法を学ぶため、インターネット上でのいじめや犯罪防止について重点を置き、指導しています。家庭でもスマートフォンなどの使い方やルールについて、この機会に話し合ってみましょう。



インターネット上には、
悪い人もいてあなたを
攻撃してくるかもしれません

パスワードは
家の鍵と同じです

一度発信した情報は
消せません。発信する前に
よく考えましょう